



人はなぜ「冬眠」しないの

「冬眠」する必要がなかったから

冬は、寒さがきびしく、食べ物がとぼしいなど、動物たちにとっては、くらすのが大変な季節です。ですから、冬をきりぬける、いろいろな方法を進化させてきました。

その一つが、冬ごもりをして、冬のすぎるのをまつ「冬眠」です。

人間が「冬眠」しないのは、人間が地球上に現れてから、「冬眠」をすることなしに、生活をしつづけてきたことと、冬の寒さから身を守ったり、食べ物を確保する方法を工夫したりして、「冬眠」する必要がなかったからです。

動物たちの「冬ごし」と食べ物の確保のしかた

ヒグマは、秋のうちにたくさん食べて、脂肪として体の中にたくわえておき、穴の中で冬眠します。冬眠中は、ほとんど活動しません。

シマリスは、秋のうちに、地下の巣に、ドングリなどをためこんで冬眠しますが、ときめきめきめは、えさを食べたり、ふんをしたりします。

ナキウサギやエゾリスも、秋のうちに、食べ物をためる習性がありますが、冬眠することではなく、動き回って、新鮮な食べ物も探します。

肉食動物のキツネやイタチは、冬眠しません。（監修・保志 宏）

